久米公民館

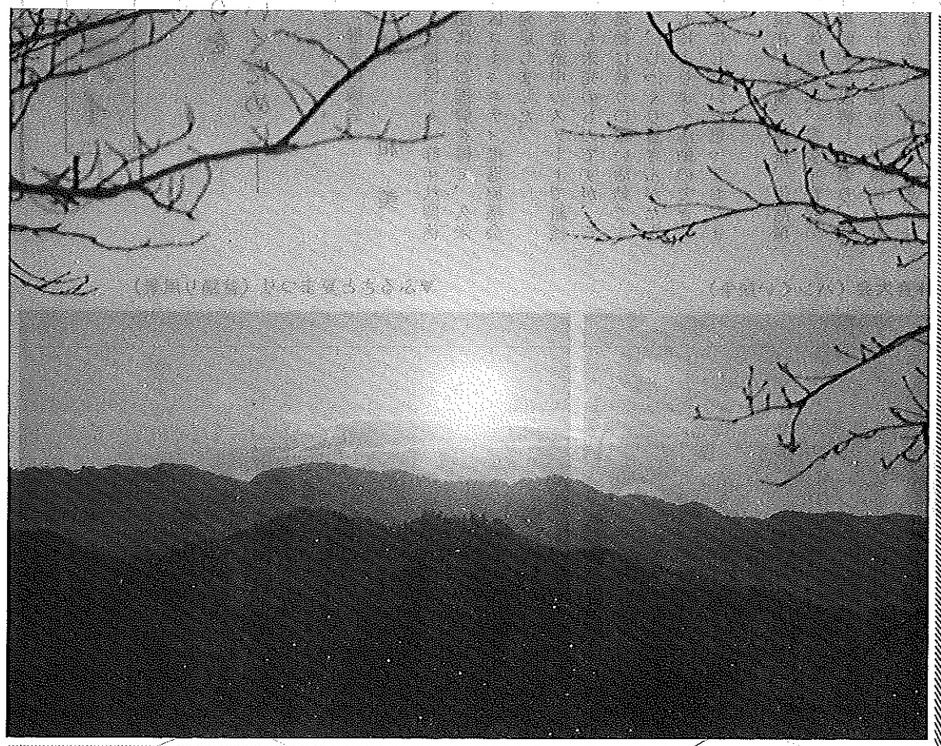
地区だより

昭和57年1月25日

第 4 号

発行 久米公民館
TEL 25－0451

印刷 ㈱ふじたプリント社



新春

―新しい年の夜明け―

久米の里

日だまりにひとが集まって
なかまができた
頭を使い
手を足を動かし
野を起こし丘を拓いた
なかまと心をかよわせ
太いつながりをつくって
生きてきた
天神山を守り山に
里をつくり村をつくって
生きてきた
新しいなかまが
日だまりによってきた
「もっとね美しい
日だまりにしようよ」
今、日が昇っていく

旭ケ丘西
石川義男

久米地区の人口と世帯数

56年12月末現在

	男	女	計	世帯数
56年12月末	4,710	4,442	9,152	3,112
55年同期	4,612	4,379	8,991	3,034
増減	＋98	＋63	＋161	＋78

私達の郷土

久米公民館長
藤井一之

今年は戌年です。ジーッと主人の帰りを待っている犬も好きだが、やはり自然の野山を主人や子供達とかけ廻っている姿の方が好きです。

かけ廻っていると、思いがけない出合いがあり、楽しいことがあると考えたいものです。

公民館は私達の憩いの場であり、学びの場です。また、豊かな郷土づくりの場としてのコミュニティセンターでもあります。

徳山市は、昭和65年度を目標年次とする徳山市まちづくり構想を策定し、理想的な幸わせなまちづくりは、地域の特性を生かしたふれあいのある住みよいまちづくりをと掲げています。久米地区も昨年10月、コミュニティ推進協議会が発足し、その活動が着実に実践に移されつつあります。

久米地区は、文化遺跡も多く、歴史的にも由緒ある地域です。この先人の築いたすばらしい地域は、今後ますます発展していくでしょう。暖かいふれあいのある豊かな郷土は私達の熱意によって作りあげていくものです。

同和教育の深化をめざして

同和問題は個人個人の人権そのものにかかわる大切な問題です。私達一人一人が正しく認識し、差別や偏見をなくし、一日も早くこの問題を解消しなければなりません。

ここに掲載してある作文は昨年の同和対策強調旬間に特選となった中学生の作文です。この作文を中心にして同和問題について家族で話しあってみましょう。

同和問題について思う

秋芳町立秋芳北中学校第一学年
坪井玲美

六年生になって間もなくのある日、私は、親友と遊ぶ約束をしていたので、急いで支度をしていた。隣では祖母がうるさく包丁を動かしていた。

「Aさんの所へ行ってくるね。」

私が、その言葉とともに、ガラス戸を開けて外に出ようとした時、それまで包丁を動かしていた祖母が、急にその手を止めて、こう言った。

「あそこへは、もう行ったらいけん。」

その言葉を聞いた私は、初め祖母の言おうとしていることが良くわからなかったので、

「Aさんの所よ。なんでそんなことをいうの。」

と問い返した。すると、祖母は言いにくそうに口ごもりながら、それでもきっぱりと言った。

「あの地区の人達とは、あまりつき合わん方がええ。」

一瞬返す言葉を失った私の頭の中では、「部落差別」という言葉がぐるぐるスピードを増しながら回っていた。

「あの社会科の授業で習ったことは、これだったんだ。歴史の中だけのことじゃなく、部落差別は今も生きつづけていたんだ。」

そのことをきっかけにして、私は、部落差別のきびしさを知らされた。社会科の授業で、人間としてあつかわれない、みじめな生活があったことを知り、自分の生まれた時代が誰も平等な世の中で本当に良かったと思っていた私だが、実はそうではなかった。現実に今、こうして不当な差別を受けている人がいるのである。そのことについて、大人に聞いてもいつも返ってくる言葉は同じ。

「子供には、関係ない。」

「お前は、まだ子供だから分からない。」

しかし、実際は私達にも関係があるのではないだろうか。むしろ、今から新しい社会を築いて行く私達こそ、より深く見つめ考えていかなければならない問題ではないのだろうか。

中学一年生になり、私にも人かの親しい友達ができた。しかし、やはりここでも、友達関係での差別を受けていた人がいたのである。つき合う前は、自分まで仲間外れにされてはいけないと、なるべくさけていたのだが、内気な私へBさんの方から話しかけてくれたことがきっかけで、次第に話すようになっていった。しかし、そんな私の耳に入ってくるBさんのうわさといえば、

「何といっても、髪からして不けつよ。」

「あの人は陰気でつき合いにくい。」

「おとなしそうで、案外意地が悪いんだから。」

というような悪い話ばかりだった。しかし、つき合うにつれ、私にはBさんが皆のいうような人ではないということが分かってきた。Bさんは目立たない人だけに外見や第一印象で、誤解されやすいのだ。

そんなある日、小学校時代からのもう一人の親友がこう言った。

「なぜ、あんな人とべとべとするん。」

私はとっさに、

「Bさんてみんなが思っているような人じゃあないよ。」

と答えかけたが、なぜかその言葉は私の口から出てこなかった。

「もし自分まで仲間外れにされたらどうしよう。」

そんな思いが心の片すみにあったからだ。しかし、だからと言ってBさんを裏切ることもできない。ああすれば、こうなる。こうすれば、ああなる。私の頭の中はまるで機械がこわれたかのようにごちゃごちゃになってしまった。

そして私はあることに気が付いた。（お前も祖母と同じではないか。祖母の差別的な発言に憤ったお前自身が差別しているではないか。）この自分に対する思いがけない問いかけは、私の心の中をするどくえぐった。（私も、私も気付かないうちに差別をしていたんだ……。）差別に気付かないということは、なんて大きな罪なのだろう。同和問題が取り上げられるたびに、「寝た子を起こすな」というような声が聞かれる。しかし、この現実に差別が根強く残っているのであれば、私達子供もその実態を知らなければならないと思う。

知ることは、時として苦しみをともなうけれど、それをくぐりぬけなければいつまでたってもきれいごとにしか過ぎない。次の世代をになう私達。私達は差別の実態を知り、自分にも他人にも、日頃からどんな小さな差別でも見逃さずに立ち向かって行こうとする態度を育てていかなければならない。他人ごとではない。私達自身の明日のために。

（昭和五十六年度同和対策推進強調旬間特選作文）

・心の窓　ひらいて育てる
　部落差別のない社会

・部落差別　みんなで解決
　明るいあした

（昭和五十六年度同和対策推進強調旬間特選標語）

コミュニティ

―心のふれあう まちづくりを 進めていくために―

久米地区コミュニティ推進協議会
会長　林　和　美

久米地区は、歴史薫る山紫水明の地として私達の少年時代は、まことに住みよい農山村でありましたが、ここ十数年来、目覚しく発展をとげ都市近郊型として住宅が密集してまいりました。

しかしながら、一方で、居住環境は必ずしも快適でなく更には、地域の人々の間での心のつながりも薄れてきたとも否定できません。

「一杯のスプーンの暖かさ」というふれあいの原点に立って思いやりのある暖かい地域社会をつくることが久米地区に住む私達に課せられた責務と思います。

小川市長は、市政の重点施策としてこうした住みよい暖かい美しいまちづくり、いわゆるコミュニティ活動の推進をとりあげています。

久米地区でも、昨年秋関係諸団体のご理解を得て、久米地区コミュニティ推進協議会が発足しました。

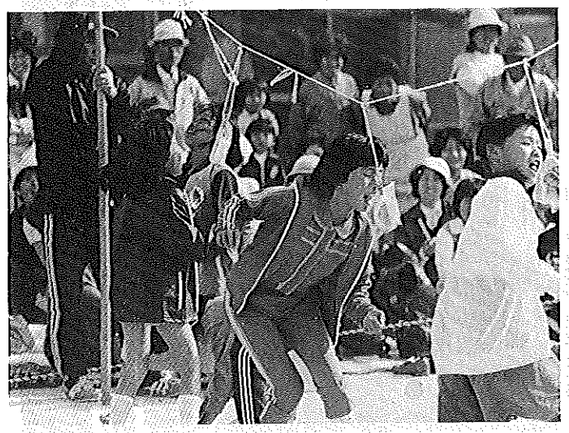
年度途中のスタートで組織的にも未完のものですが、この運動は終りのない活動ですので、じっくり皆さんがたとともによりよく活動のできる組織にしたいと思っております。

現在、総務、福祉、生活環境、体育振興、青少年育成の五専門部を設置しており、昭和五十七年度から本格的に取り組んでまいりたいと思います。

久米地区在住の皆さん「アイ・ラブ・クメ」をキャッチフレーズに、住みよい美しい久米にするよう格段のご理解ご協力をお願い申しあげます。

▼ふるさと夏まつり（盆踊り風景）

▼ 体育大会（パンくい競争）



久米地区連合 寿会の設立

ひばりケ丘
戸田貞蔵

明けましておめでとうございます。今年も皆様揃っておしあわせでありますようお祈り致します。

当地区には五つの老人クラブ寿会があり、夫々その目的の為に運営努力されていますが、ますます複雑化する社会情勢に適応していく為に先づ地区内の寿会が腕を組み連絡を密にする事が大切です。一方、官公署や各種団体との連絡協調、あるいはコミュニティ活動にも積極的に参画していく必要があり、昨年十月久米地区連合寿会が結成されました。不肖私が初代会長を仰せ付かることになりましたがもとより、浅学非才重荷とは存じますが、周囲の方々の暖かい御指導と傘下単位寿会の御協力により、私の予ねてからの願い「考える、動く、笑う寿会」であります様微力を尽くしたいと思います。今後とも宣敷くお願い致します。

なお、寿会加入希望者は、各寿会長または評議員にお申し出下さい。

婦人会活動の課題

旭ケ丘西
熊野田鶴子

婦人会活動には、多くの目的、課題がございます。そのいづれも大切な問題ばかりですが、昨今の状勢を考えてみますとき、婦人会で、早急に取り組まなければならない重要な課題として次の二つを重点的に取り上げてみたいと思います。

一、青少年の教育問題

特に子育ての時期にある若い

お母様方を中心に、非行の原因、予防等について、話し合いの場を持ちたいと思います。

二、公害問題

環境汚染、食品添加物、農薬等について勉強会を持ち、賢い消費者としての眼を養いたいと思います。特に、農協婦人部と連けいして、よりよい農作物の出荷を定期的に計画出来ればと思います。

人間だけが
別であるわけがない
自然とともに
人間もほろび
あるいはさかえる

―消費者協会新聞より―

（久米婦人会会長）

子どもからのメッセージ

久米地区子供会連合育成会
会長　三浦俊信

ある日、息子がバリトンでおやじ、おふくろと云っているのを耳にしてギョッとする。いつの頃からか娘が一人で入浴する様になったことに気づいてまぶしい思いをする――。親なら誰しもこんな思いをした日があったのではないでしょうか。そして、親として最もよく知っているはずの我が子の事を、実は何も知っていないことに驚きます。最近、中・高校生の非行が大きな社会問題になっていますが、ある学者は、非行とは強い自己表現であって、その人の人格の表現ではないと語っています。我々大人ですら方向を見失いがちな複雑多様な社会機構の中で、自己本位な幼児期から、他人と共存し合い、生きて行く事を学ぶ年頃の子供が、初めて体験する様々な社会の仕組みや、大人達の姿に、驚き、とまどい、苦しむ。その結果、非行という型のメッセージで大人に投げかける。その心の叫びを、すべての大人達は、しっかりと受け止めてやらねばと思います。

（私達の子供会育成会においても子供をどうするかではなく、子供同志の交わりを通し大人がどう子供にかかわっていくかが大切ではないでしょうか。そして地域ぐるみで、子供の必死のメッセージをしっかり読み取っていきたいと思います。

◀それゆけ子供みこし

天神山

天神山は標高僅か八十九メートルの小丘であるが、久米のシンボルとして地区民に最も親しまれ愛されている山である。

山頂からの眺望もよく、殊に陽春のころ爛漫と咲き誇る桜花は誠に見事で、周南屈指の桜の名所の名に恥ない。

ここには岡野神社と忠魂碑がある。

菅公を祀る岡野神社は、古くから創建された村の鎮守社で旧号を岡野天満宮といったが、明治六年に岡野神社と改称した。

頂上近くにある忠魂碑は、大正九年に建立され日清、日露の戦争や、その後の戦役で戦没された勇者の霊が祀ってある。

かっては氏神様の春秋の例祭や、戦没者の慰霊祭が、村民とぞって盛大に行われた。

山の中腹には古墳時代の遺跡である横口式古墳が三基あったが、今ではその名残りを留める巨石の一つが、忠魂碑の前の広場にある大灯籠の笠石となって残っている。

ここの地名を殿山と言い、往古、有力者の館のあった所と伝えられ、また中世のころ末武の城山に続く狼煙場のあった山とも伝えられている。

（筆者は老郷地上の郷土史家　年光保秀さん）

単位自治会だより

旭ケ丘中央自治会
難波　満

旭ケ丘は、昭和四十年から入居が始まった団地で、五年後には四百戸以上になり、六自治会となった。その中央に在るため中央自治会と称し、現在六十九戸、二百八十数人の会員です。自治会役員は、心豊かな町づくりを目標に、お互いが顔見知りとなり、あたゝかい心のふれあいの場をと、梨狩、みかん狩、海水浴、ボーリング、ハイキング、花見、運動会、球技大会等を実施してきた。費用は、会員の協力で百%近い納税組合加入者の還付金と、市から受ける手数料のすべてを運営資金にして活用し、全戸から徴収する会費は月額四十円で足りる豊かな自治会です。

自慢は運動会です。ほとんどの世帯が参加し、久米小学校で六年間続けています。

今年もあたゝかい、ふれあいの場づくりを目指し自治会活動を推進していきたいと思っています。

石ケ迫自治会
内山千鶴子

昨年は交通安全対策に終始した感があります。六月のふれあい橋完成、十二月に久米小通学路整備も多くの人々の協力で実現し、二月上旬までには中央線の一部拡張も決定しました。この間、多数の人との話し合いを通じて心と心のふれあいも育ち、近隣の五自治会と共に、ひ　つの目標に向って歩めたことは意義の深いことでした。今後も交通安全に限らず、色々なことをみんなで相談しながら、ふれあいの輪をもっともっと大きく拡げて、豊かな住みよい地区にするよう努めていきたいと思います。

◀ふれあい橋渡り始め

投稿

母子保健推進員にご理解を

旭ケ丘中央
岡本淑子

皆さん「母子保健推進員」という言葉をお聞きになった事がありますか？簡単に言えば地域の妊産婦、乳幼児と市の保健婦さんとのパイプ役、相談役です。推進員は久米に二十人余り居り、もう九年になります。始めの頃は、訪問しても保険の外交員と間違われたり、人口動態がはげしい地域によっては理解も得られず、苦労も多かったのですが研修会や積極的な働きかけ、推進員同志の協力、努力等により現在やっと地域に根をおろした運動として自治会の協力も得られ微力ながらお役に立っているのではと思える様になりました。せっかく市が良い制度を作ってもそれを市民が利用しなければ何にもなりません。常に行政を動かすのは市民だと思います。推進員を育てるのも地域の人達です。多いに利用しささえ育てて欲しいのです。

最近は出生が少ない所も出てきました。健康問題も単に母子のみに限りません。健康で明るい人生を送れる人が一人でも増える久米、そんな町になればと切に願います。